

市の人口と世帯数(平成22年12月1日現在推計)

●人口 88,656人(前月比マイナス54人)

☆男

44

131人(前月比マイナス27人)

☆女

44

525人(前月比マイナス27人)

●世帯数

35,086世帯(前月比マイナス32世帯)

旬の味をお届け 学校給食にブリが初登場



12月13日～16日、市内の全小学校の学校給食で舞鶴港に水揚げされた「ブリ」が初めて提供されました。



▲ブリの給食に大喜びの児童(岡田下小)

小学校では、これまでから食育や地産地消の取り組みの一環として、地元でとれた野菜や魚を献立に取り入れてきましたが、冬の味覚であるブリは価格が高く給食の食材として利用することが困難でした。しかし、地元でとれる旬の魚を子供たちに味わってもらい、水産業への関心を高めてもらおうと市の補助を受けて舞鶴水産流通協同組合が「いただきます。まいづるのお魚普及事業」として取り組み今回実現しました。

当日の献立は、照り焼きや照り焼き風に調理されたブリと大根ご飯やサトイモのみそ汁などが出され、児童は旬の味を口いっぱい味わいました。今月にはカマスが給食に登場する予定です。

《水産課・学校教育課》

舞鶴

海の恵みがいっぱい



殻から丁寧に身をを取り出す(上)。イカダで養殖したカキを引き揚げる(左)。

ブリブリのカキ召し上がれ

舞鶴の冬の味覚であるカキの出荷が始まっています。舞鶴牡蠣組合(天下敏明組合長)が湾内に浮かべたイカダ約200基で養殖。今年は実入りがよく味も濃厚。出荷は3月末まで続く予定です。

グルメキャンペーン 展開中

舞鶴かきグルメキャンペーン協議会(観光協会・府漁業協同組合・社市水産協会)では、今年も「舞鶴かき井」グルメキャンペーンを展開中。ブリブリで濃厚な舞鶴産のカキを堪能してみませんか。

いろいろな「舞鶴かき井」が登場

冬の舞鶴グルメ「舞鶴かき井」が登場。より多くの店舗がキャンペーンに参加できるよう今年から条件を◇舞鶴産のカキ5個以上と



カキと舞鶴かまぼこの相性は抜群

舞鶴かまぼこを使用している◇舞鶴産のカキの「ブリ」感を損なわない◇おいしくてまた食べたくなることに変更。

グルメマップを製作

「舞鶴かき井」や舞鶴産のカキを使った料理が食べられる店などを地図付きで紹介する「舞鶴かき井グルメマップ」(A3判、両面カラー刷り、2万部)を製作。観光商業課やまいづる観光ステーション、JR東舞鶴駅観光案内所、道の駅舞鶴港とれとれセンターなどで無料で配布しています。

詳しくは、同課(☎66・1024)へ。

「村の明治維新」巡回展

各地区に村絵図など

1月15日(土)から加佐公民館などで郷土資料館巡回展「村の明治維新-明治6年の村絵図を見る-」を開催します。明治維新は、近代日本の出発点となった大革命で、廃藩置県や地租改正などが行われました。巡回展では地租改正に使われた各地区の村絵図などを展示します。



▲丸田地区の村絵図

日程や展示内容は次のとおり。
《加佐公民館》1月15日・16日(日)。神崎地区や丸田地区の村絵図など。
《大浦会館》1月29日(土)・30日(日)。瀬崎地区の村絵図など。
《まいづる智恵蔵》2月5日(土)～13日(日)。余部上地区の村絵図など。
いずれも時間は、9時～17時。入場無料。詳しくは、郷土資料館(☎75・8836)へ。

舞鶴かまぼこ絵文字大賞 応募作品を展示中

まいづる観光ステーションでは、「第2回舞鶴かまぼこ絵文字大賞」の入賞作品を含むすべての応募作品「舞鶴かまぼこ」に親しみを(72点)を展示中。舞鶴かまぼこ知ろう館活用協議会が、舞鶴の地域ブランドである「舞鶴かまぼこ」に親しみを



▲応募作品72点を展示

◆展示期間 1月20日(木)まで(1月1日(土)元日)

《まいづる観光ステーションが1周年》12月17日「まいづる観光ステーション」が開設1周年を迎えました。舞鶴イチオシ土産品の販売や各種観光パンフレットの配布などさらなる「おもてなし」の充実で観光客の利便性と満足度の向上を目指します。詳しくは、同ステーション(☎75・8600)へ。

地域の食と環境を学ぶ ナマコの保育所づくりスタート

中保育所

12月21日、京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所准教授の益田玲爾さんが中保育所を訪れ、児童たちにナマコの

赤ちゃんをプレゼントしたほか、飼育方法を説明。同保育所で「ナマコの保育所づくり」が始まりました。昨年10月に同保育所の児童が地域の食と環境を学ぶ取り組みの一環として同実験所を訪れ、舞鶴の海や魚について学んだほか、ナマコの研究の様子を見学。益田さんがナマコは海底の有機物を食べる「海のおそうじやさん」であること、ナマコの漁獲高が減っていることから育成する研究(カキなどの貝殻を網に入れ、



▲プレゼントされたナマコを観察

今後、児童はナマコを水槽で飼育しながら、各家庭で出される貝殻などを集め、2月下旬には「ナマコの保育所」を完成させ、実際に海中にするとしてナマコの保育所への入所が始まります。

常用漢字が改定 読みやすい紙面へ

日常生活で使用する漢字の目安となる「常用漢字表」が29年ぶりに改定されました。現行の1,945字に196字追加、5字削除して計2,136字となりました。

今回の改定を受け、「広報まいづる」では読みが比較的易しいと思われる字はそのまま取り入れ、難しいものは読み仮名を付したり仮名書きにしたりするなど、より読みやすくわかりやすい紙面づくりに努めます。

《秘書課広報広聴係》